

八千代工業株式会社

第67回定時株主総会

2020年6月23日

事業報告

連結計算書類

計算書類

招集ご通知16～48ページをご覧ください

経済情勢

国内

輸出や設備投資の弱さはあるものの、個人消費は持ち直し、緩やかな回復基調

海外

米国及びアジア諸国は緩やかな回復基調

中国は米中の通商問題、過剰債務問題を含む金融市場の動向等から、緩やかな減速

全世界

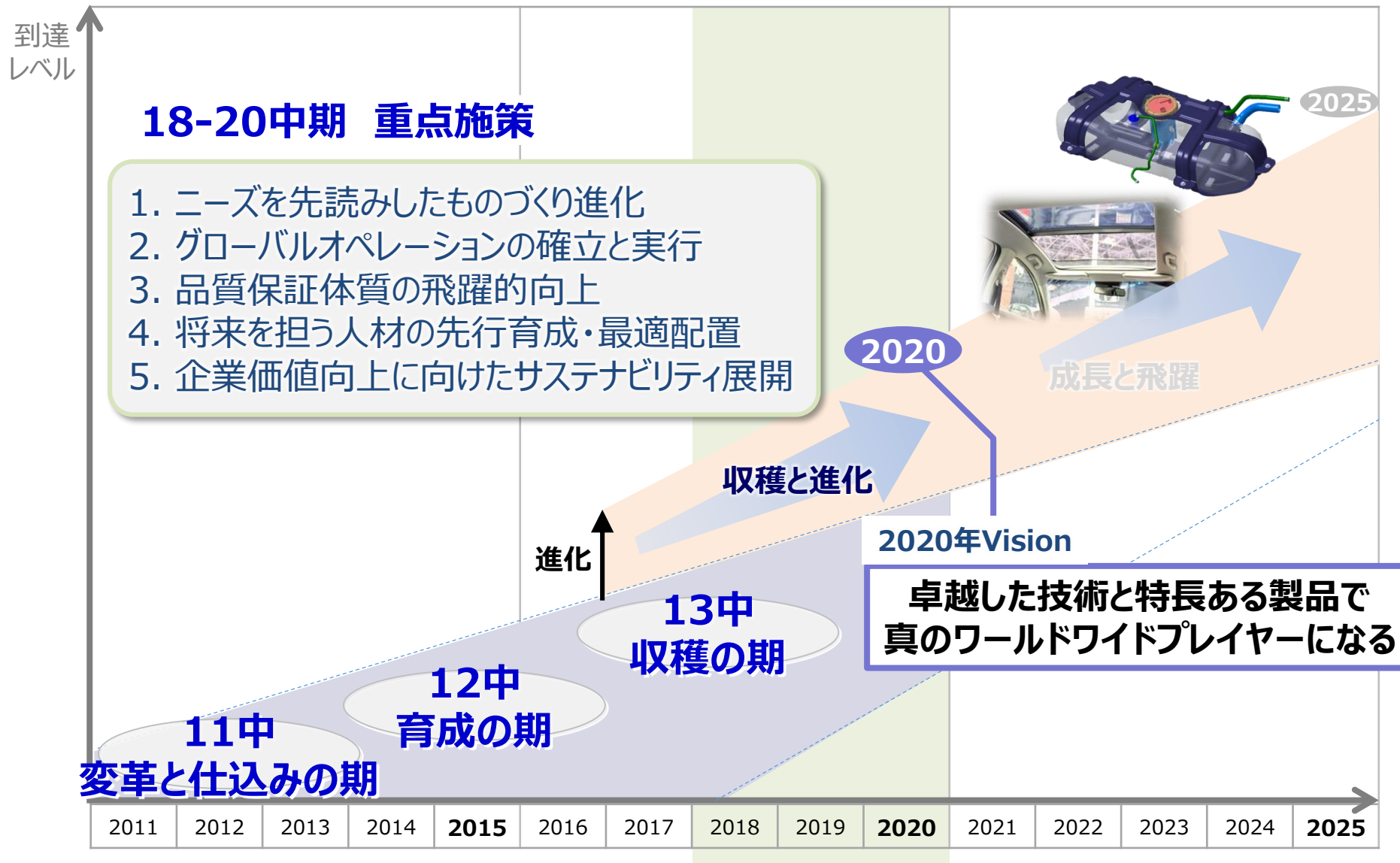
新型コロナウイルスの感染拡大により、2019年度末にかけて経済活動が抑制され、急速な減速

単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比		
売上収益	1,612	1,546	-65	(-4.1%)	↓
営業利益	7	10	3	(41.4%)	↑
税引前当期利益	9	8	-1	(-13.1%)	↓
親会社の所有者に 帰属する当期利益	-43	-32	12	(－%)	↑

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております

	2018年度	2019年度	前年度比
中間配当金	8 円	8 円	—
期末配当金	8 円	0 円	- 8 円
年間配当金	16 円	8 円	- 8 円
連結配当性向	— %	— %	— %



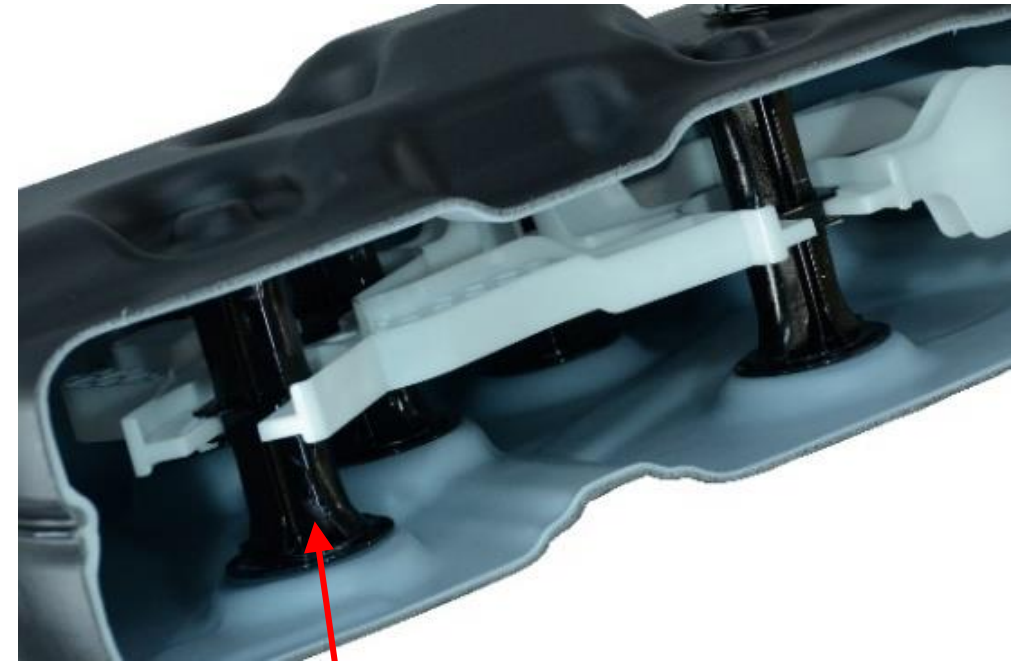
燃料タンク プラグインハイブリッド用高圧密閉燃料タンクの開発を推進

外部補強タイプを中国にて2020年4月から
Hondaクライダー向けに量産開始



外部補強

さらなる競争力強化に向け内蔵支柱タイプの
開発を推進



内部補強

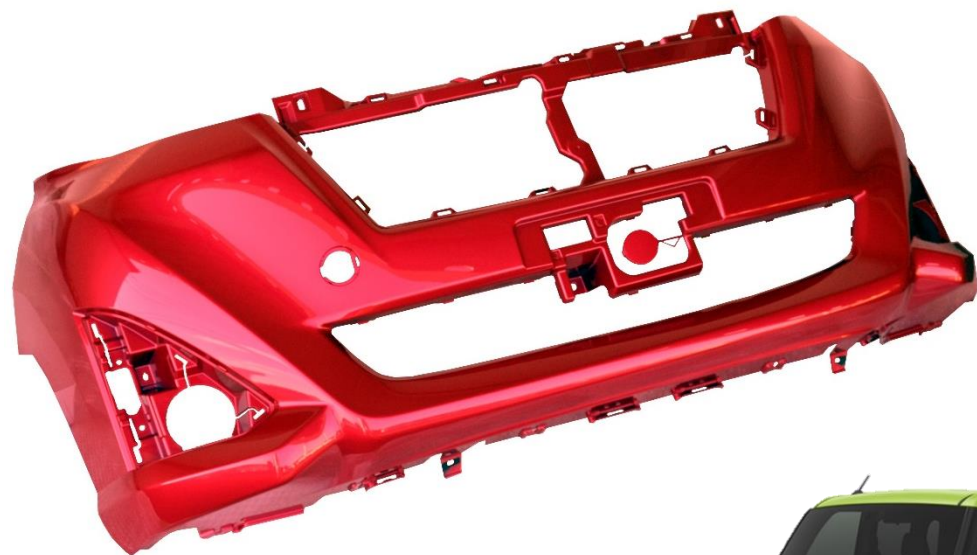
サンルーフ 魅力的な車内空間に対応したパノラマサンルーフのラインアップを拡充

米州、中国に次ぎ、新興国でのサンルーフのニーズの高まり



樹脂製品 品質に対し高い評価をいただく

新たな部品の受注を獲得



ダイハツ工業様「トール」のバンパーを生産

Honda FITのモデルチェンジに合わせて、同時での発表、発売を実現



Honda FIT

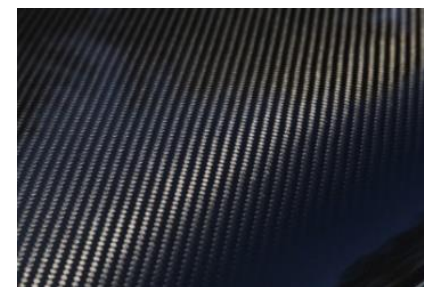


東京モーターショー2019に出展
多くの反響をいただいた

Honda S660に対応したカーボンルーフを当社オリジナル製品として企画、開発、製造し、2019年6月から販売を開始



Honda S660



優位性

従来の布製に対し、約20%の軽量化を実現

ボディーの高剛性化

広い室内空間の確保

美しい表面仕上げ

手にされたお客様から多くの喜びの声をいただいております。

今後はカーボン技術を車体骨格部品などへ応用させ、自動車の電動化に対し軽量化で対応。

将来の樹脂製品の事業拡大に向けて、樹脂バックドアの開発を推進。
自動車の電動化に対し、車体の軽量化で対応。



東京モーターショーではプロトタイプを展示し、
多方面から問い合わせをいただいております。
今後は商品性を熟成させてまいります。

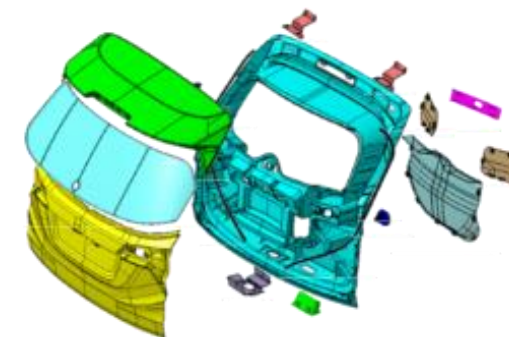


優位性

従来の鉄製に対し、大幅な
軽量化を実現

部品統合により点数を削減

複雑な造形が可能となりデザ
インの自由度が向上



ヤチヨ インディア マニュファクチュアリングにおいて、マルチ・スズキ様「S-PRESSO」の燃料タンクを受注。2019年8月より生産を開始。



マルチ・スズキ様
「S-PRESSO」

ヤチヨ インディア
マニュファクチュアリング



さらなる販路拡大に対し生産能力をアップ
樹脂製燃料タンク生産ライン増設による建屋拡張
2021年稼働予定



既存事業・製品の生産改革展開をスタート

生産改革

現状の生産規模でも確実に収益を上げる
筋肉質な生産体質へ

- 徹底した原価改善施策の実行
- グローバル全拠点高位平準化 など

事業の盤石化

－ 日本 －

- ・ 国内生産の収益体質向上
- ・ 海外事業健全化による日本への還元

－ 米州 －

- ・ 拠点自立化と品質基盤の立て直し
- ・ 原価構造見直しによる収益体質の改善

－ 中国 －

- ・ 客先生産の拡大に追従した安定成長の継続

－ アジア －

- ・ 販路拡大による設備負荷率の向上

品質強化の取り組み

強化施策

原点に立ち返り、品質の基礎体力を強化

- ・ 品質を守る**製品仕様**の構築
- ・ **源流品質改善**のできる人材の育成
- ・ 拠点**品質保証体制**の強化

課題

- ・ 源流での品質つくり込み
- ・ 品質保証体制構築

急激なグローバル展開 ⇒ **人材育成の遅れが発生**

- ・ ローカルアソシエイトの急速な入れ替わり

- ・ マザーレス立上げによるノウハウ伝授の遅れ

連結業績

製品別業績

セグメント別業績

連結業績（継続事業）



単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比	
売上収益	1,612	1,546	-65	(-4.1%) ↓
営業利益	7	10	3	(41.4%) ↑
税引前当期利益	9	8	-1	(-13.1%) ↓
親会社の所有者に 帰属する当期利益	-43	-32	12	(- %) ↑

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております

為替レート（AR） （USドル）	111円	109円	2円 円高
---------------------	------	------	-------

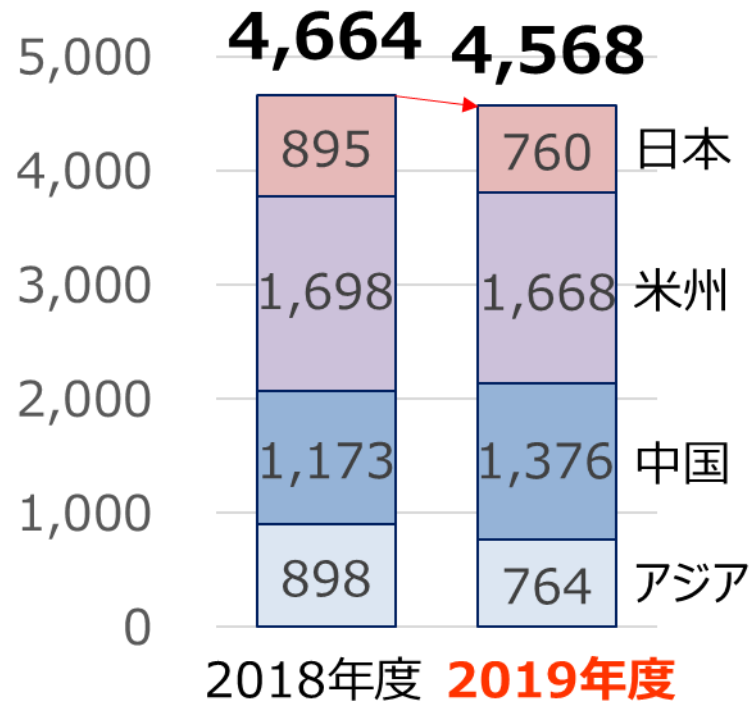
製品別業績



日本、米州、アジアで
生産台数が減少

生産台数

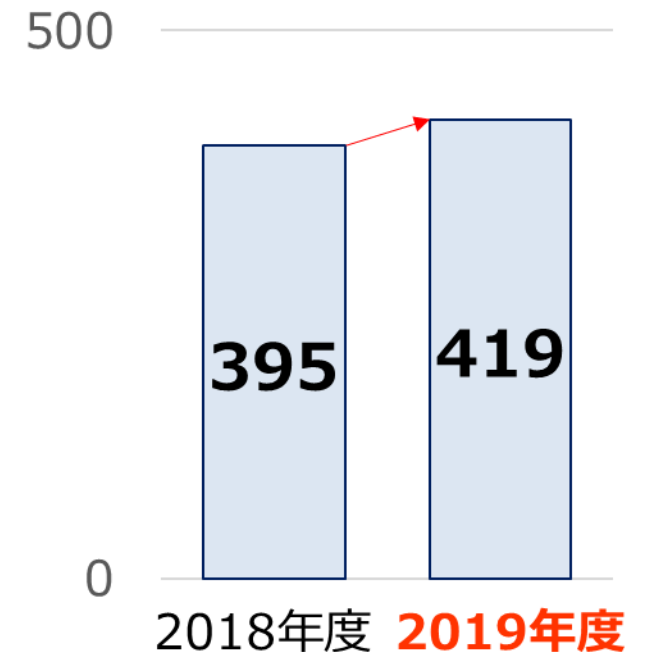
単位：千台



前年度比 -96千台
(-2.1%)

売上収益

単位：億円



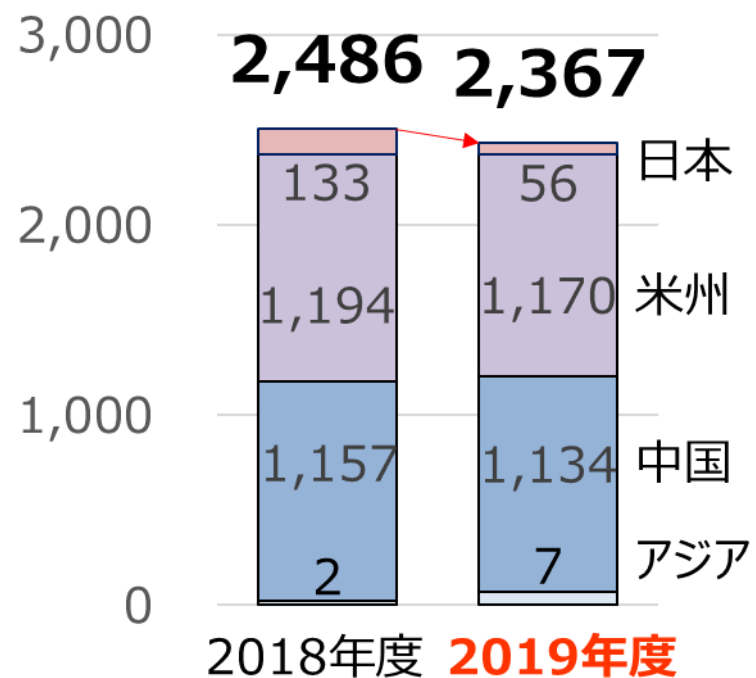
前年度比 +24億円
(+6.2%)



日本、米州、中国で
生産台数が減少

生産台数

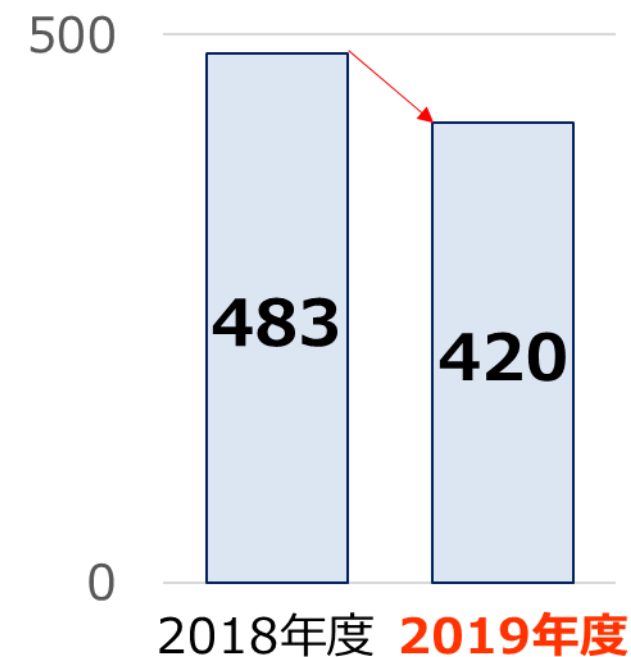
単位：千台



前年度比 -119千台
(-4.8%)

売上収益

単位：億円



前年度比 -63億円
(-13%)

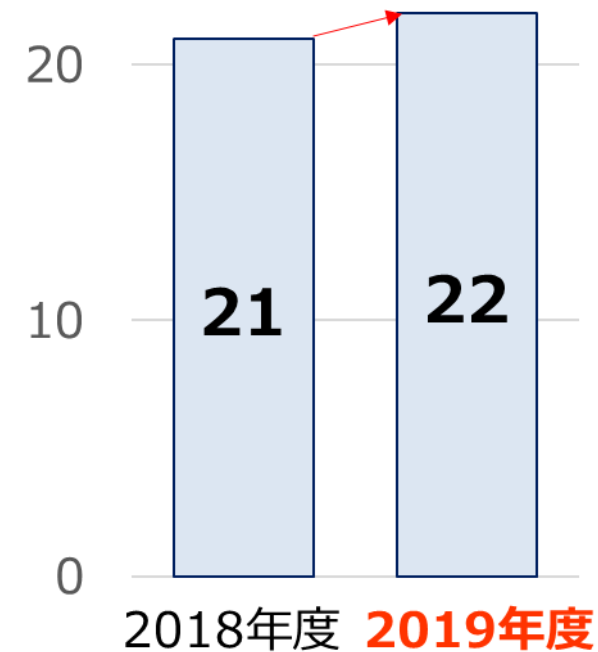


ダイハツ「トール」のバンパーを
鈴鹿工場で生産



日本で
生産台数が増加

売上収益 単位：億円



前年度比 +1億円
(+4.8%)



フレーム



キャタライザー
(触媒)



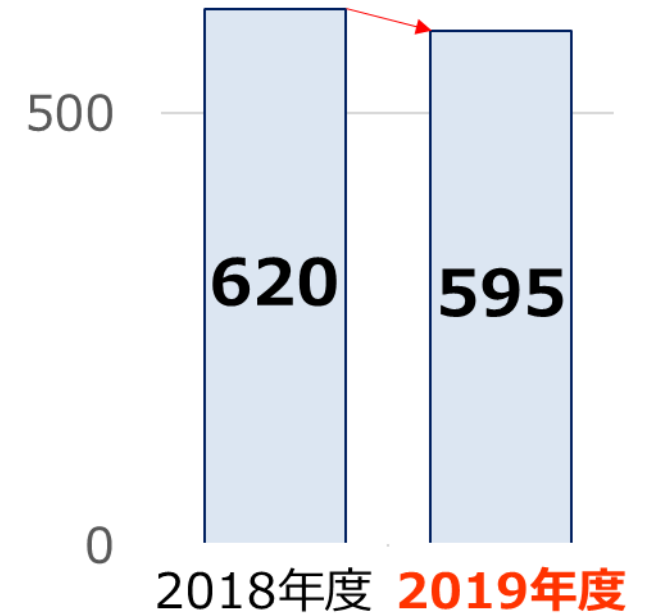
マフラー

日本、アジアにおける
受注の減少



二輪部品の生産を担う
合志技研工業グループ

売上収益 単位：億円



前年度比 -25億円
(-4.0%)

セグメント別業績

単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比	
売上収益	279	233	-46	(-16.6%) ↓
税引前当期利益	-14	-73	-59	(- %) ↓

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております

主な製品



燃料タンク



サンルーフ



樹脂部品



二輪部品



主な要因

- ・売上収益
- ・税引前当期利益

受注の減少により減収
減損損失の計上や受注の減少に加え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で悪化

単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比	
売上収益	392	361	-31	(-8.0%)
税引前当期利益	-82	-22	+60	(-%)

主な製品



燃料タンク



サンルーフ

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております



主な要因

- ・売上収益
- ・税引前当期利益

受注の減少、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により減収
生産安定化費用の減少などにより改善

単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比		
売上収益	333	369	+36	(+10.8%)	↑
税引前当期利益	38	58	+20	(+53.0%)	↑

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております

主な製品



燃料タンク



サンルーフ



主な要因

- ・売上収益
- ・税引前当期利益

新型コロナウイルスの影響はあったが、受注は増加
受注の増加、原価改善効果などにより増益

単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比	
売上収益	607	583	-24	(-3.9%)
税引前当期利益	66	44	-22	(-33.5%)

主な製品

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております



燃料タンク



サンルーフ



樹脂部品



二輪部品



主な要因

・売上収益

受注の減少などにより減収

・税引前当期利益

受注の減少および機種構成差などにより減益

連結財政状態計算書

単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比
資産合計	1,188	1,172	-16
負債合計	514	563	50
親会社の所有者に帰属する持分合計	532	474	-58
非支配持分	143	135	-8
資本合計	675	609	-66
負債及び資本合計	1,188	1,172	-16

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております

主な要因

- ・資産合計 営業債権およびその他の債権が減少
- ・負債合計 借入金が増加
- ・資本合計 利益剰余金の減少

当社単独業績

単独業績（日本基準）



単位：億円

	2018年度	2019年度	前年度比		
売上高	406	317	-89	(-21.9%)	↓
営業利益	-19	-34	-16	(- %)	↓
経常利益	13	-1	-13	(- %)	↓
当期純利益	14	-103	-117	(- %)	↓

※ 1 億円未満は四捨五入して表示しております

主な要因

- ・売上高 受注の減少
- ・当期純利益 受注の減少および特別損失を計上

経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

招集ご通知19～21ページをご覧ください

「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」

基本理念

人間尊重 顧客第一

社是

わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

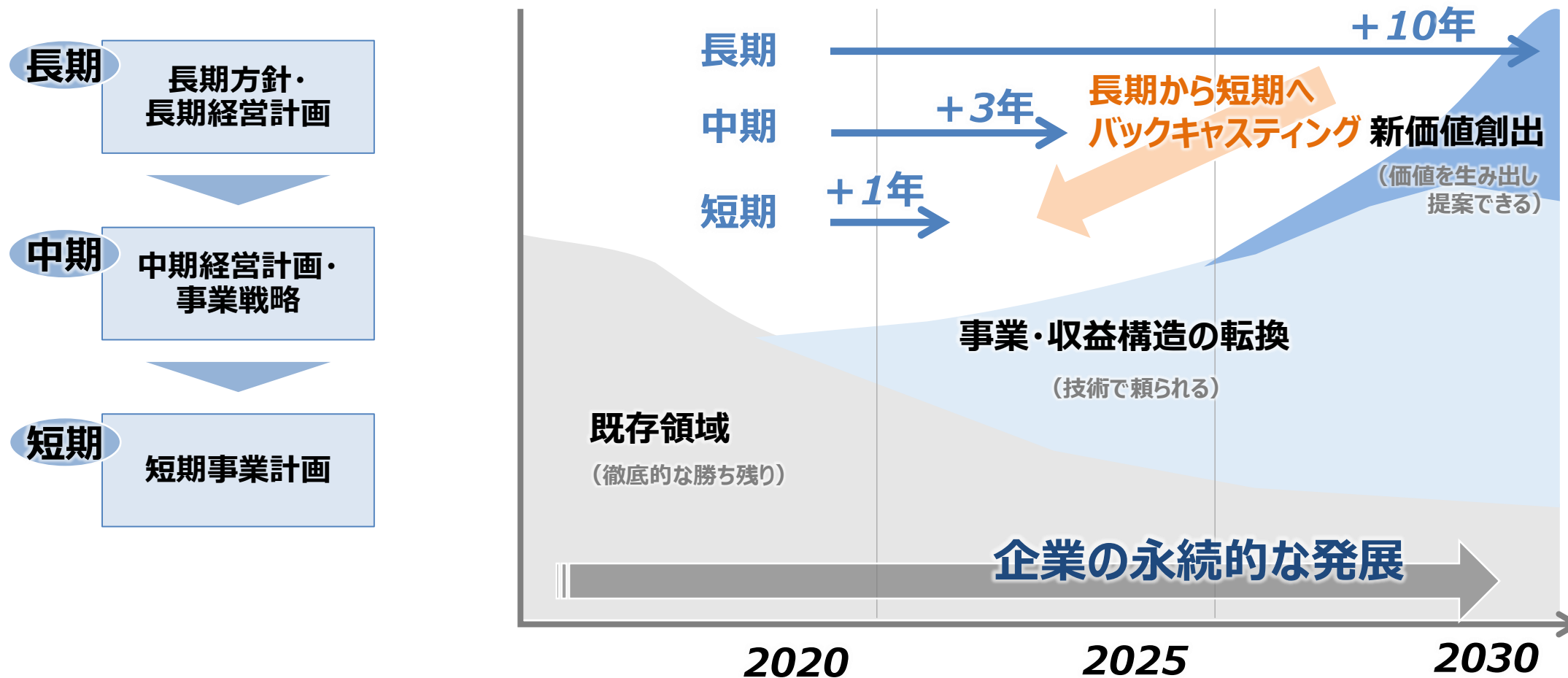
行動指針

常に夢をもち若さを保つこと。
感性を磨き技を鍛えること。
安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
時間と独創性を重んじること。
自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

10年後のありたい姿をビジョンとして定め、その達成に向け、中期3カ年ごとの目標をマイルストーンとして設定し事業を推進しています。

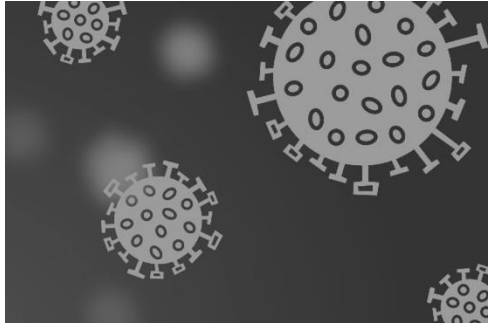
Vision 2030

ものづくりの^{たゆ}弛まぬ進化で
モビリティのキーカンパニーになる



短期

新型コロナウイルス感染症



経済活動の滞り



新車販売台数の一時的な減少を予想

長期

米国・中国の2大市場がけん引



アジア諸国での需要の高まり



自動車生産・販売台数の拡大を期待

先行きは依然として不透明な状況のため今後の動向には注視

自動車メーカーの動き

CASE、MaaSなどの新価値具現化



自動車メーカーは資源投入を加速

CASE

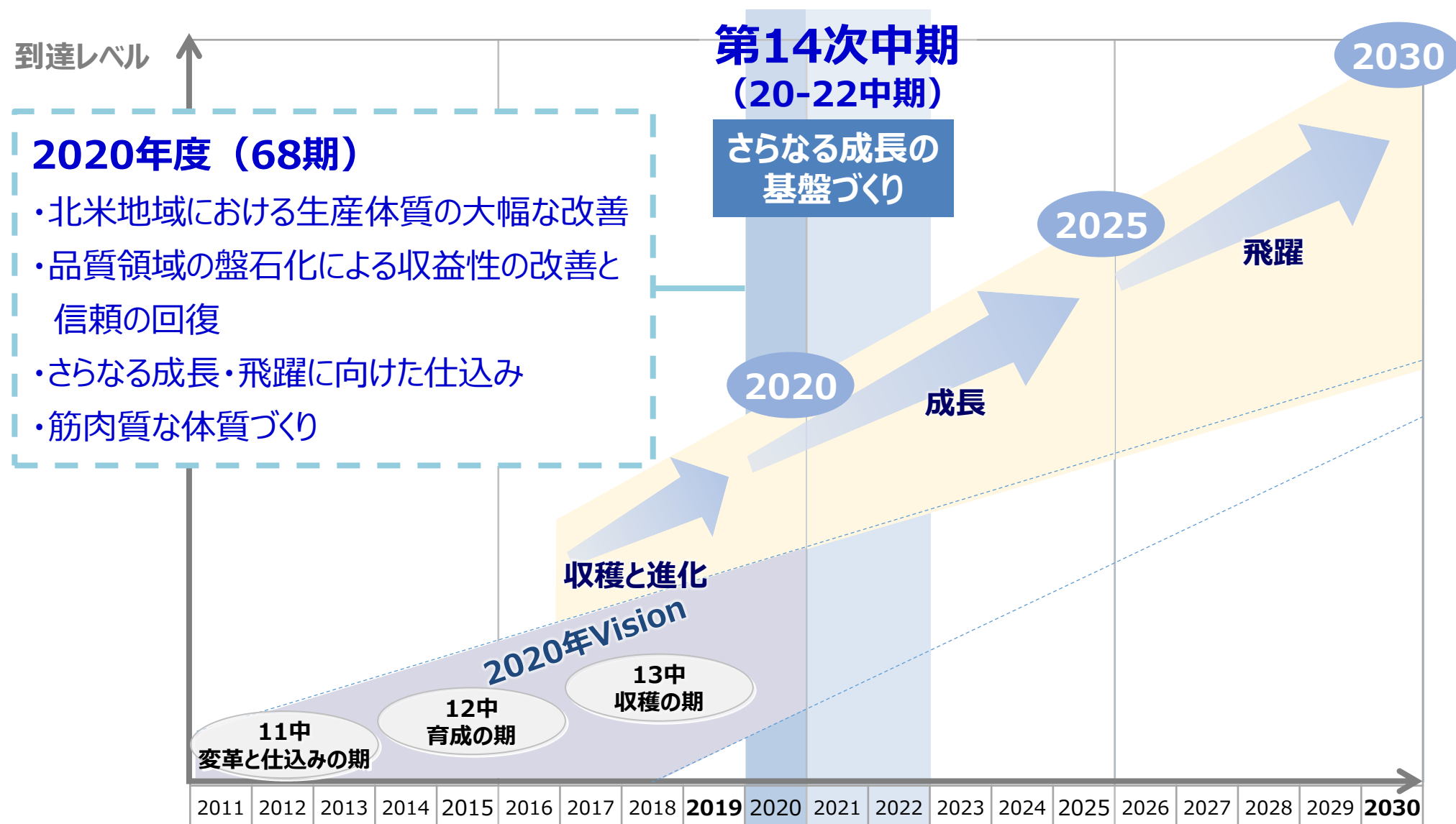
C onconnected	接続性
A utonomous	自動運転
S haring	共有
E lectric	電動化

MaaS

Mobility **as a** **S**ervice

あらゆる交通手段による
移動を継ぎ目なくつなぐ
新たな概念

部品メーカーは独自提案できる企画開発力とグローバルレベルの供給力を備える必要がある



将来を見据えた施策を展開し、次の中期、2030年へと繋げる